

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203212	
法人名	医療法人 恵和会	
事業所名	グループホームあけぼの	
所在地	岡山県倉敷市児島小川9丁目486-1	
自己評価作成日	平成30年2月13日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=3370203212-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社	
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階	
訪問調査日	平成30年2月28日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様のお一人々に寄り添い、個々の能力に合わせた援助に努め、日々穏やかに過ごせるように、ご本人・ご家族の思いに添えるような支援を心がけています。
また、四季に合わせた創作活動に取り組むようにしています。
地域交流を目的として、近隣の方々に慰問を依頼し、法人全体で参加しています。
母体が医療機関の為、医師・看護師との連携を図りながら健康管理に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

学校や病院、商業施設等が立ち並ぶ、利便性に富んだ場所に入居者は何の制限もなく自分の意思を自由に表し、普通の生活が出来るよう支援されている。リビングでは職員と入居者が距離を感じることなくコミュニケーションを交わし、和気あいあいと活気にあふれている。法人の病院と医療連携体制を取り、常時看護師による点滴等、医療処置が可能であり、健康管理されている。建物全体が和風様式で、居室の扉はそれぞれ違うデザインでまとめられ、自室と他室の区別がしやすい。小学校との関わりにおいて、運動会等に招待されたり、知的障がい学童のボランティアを受け入れたり等交流をしている。管理者から今後の課題として「避難訓練において集合時間の確認や緊急時の対応の仕方を考えたい」と語ってもらえた。今後に期待したい事柄である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、それに基づいた方針でケアの方向性を決め、会議等でも話し合っている。	職員の要望に基づいた目標(思いやり、支え合い、助け合い)を考案し、職員・入居者双方の実践に繋がる様努めている。特に声掛け等の言葉使いには細心の注意を払いながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつであるが、地域の方の慰問・児童クラブの慰問に来て頂いたりして、交流の場が増えて来ている。	運営推進会議に民生委員の出席を得ている。隣接する小学校の運動会に招待されて観戦し、楽しんでいる。踊り・ダンスなどのボランティアや知的障がい児童ボランティアの受け入れをしている。	地域との付き合いは多方面にわたり広く交流が出来ているので、継続していかれる事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方との話す機会を設けたり、相談を受けた場合は認知症について支援方法等をアドバイスを行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、地域の方・民生委員・高齢者支援センター・他グループホームの皆様に参加して頂き、行事報告や意見交換を行っている。	要介護度状況等の報告や敬老会・秋祭り・踊りの慰問の報告をしている。民生委員から個人情報保護法により地震や災害時に必要な住民情報が収集しにくいとの話があり、ホームの立場として意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市と連携し、助言・協力を得てサービス向上に努めている。又、運営推進会議にも参加頂き、介護情報を提供して頂いている。	運営推進会議に地域包括、介護保険課の参加があり、事業所の活動報告や入居者の空き状況を伝えている。認定更新時の情報提供をして協力をしている。行政主催の研修に快く参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、常に自由に出入り出来る様にし、施錠必要時には防犯ブザー等で見守り対応を行い、ご希望の入居者様には納得の行くように外に出て頂き気分転換を図って頂ける様に努めている。	健忘症の既往歴のある方の不穏時ケアを協議し、「本人の心身状態をよく観察し、見守りを怠らないようにする」などの対策を講じ、拘束に繋がらないよう取り組んでいる。玄関や窓は施錠をしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・資料等で学ぶ機会を設けている。また、日々の更衣等には、傷等が無いが常に心がけ、発見時には申し送り・意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている入居者様が1名いらっしゃるの、自己決定必要時には声を掛けさせて頂いている。又、ご相談があれば対応する様に心掛けている。研修・資料等で学ぶ機会も設けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い疑問等にお答えし、納得して頂く様に努めている。改定時には随時、説明し承諾して頂き書面にもサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を活用し、第三者の意見をお聞きしたりしているが、ご家族の参加が出来ていない。入居者様には、日々の関わりの中でご要望を聞き、反映させるように努めている。	入居時に運営事項を説明し意見を聴く機会を設けている。「あけぼの便り」を発行し、行事活動の様子を掲載して、取り組みを伝えている。行事活動時に入居者の様子から運営の在り方を判断している。	アンケートの結果を家族の意見・要望と捉えて、皆で話し合われる事を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ケア会議を開催し、職員が意見交換をしやすい関係作りに努めている。また、会議のみでなく随時、意見・要望等を聞き対応するようにしている。	ケア会議にて介護支援の統一を図ると共に、業務の流れを確認している。管理者は業務に実際入り、スタッフといつも話し合える環境にある。研修に参加して認知症に関する専門性を高め、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の就業時等の様子を把握するよう努め、意見・要望を聞くようにしている。必要時には代表者へ伝えるようにしている。又、職員の勤務可能時間に合わせて勤務時間を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	時間の許す限り、研修へ参加する機会を作り、認知症の対応や介護技術の向上に努めるようにしている。研修後は資料を活用し回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの運営推進会議に参加したり、必要に応じて相談・指導を受けたりし、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集を行い、出来る事・出来ない事を見極め、ケアを行う様努めている。又、コミュニケーションを図りながら、ご本人の意欲を汲み取る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に、ご家族の意向をお伺いし、離れていても安心して頂けるような関係作りに努め、入居後の面会時には、積極的にお声を掛けさせて頂く事で、親近感を持って頂き、話しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス前に、ご本人・ご家族のご意向をお伺いし、より良いサービス提供が出来る様に努め、入居後は、必要なサービスを見極めて提供する様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事・得意分野を把握し、個々の能力が発揮できる場面作り・声かけを行いながら信頼関係が築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、近況報告を行い、月1回のお便りや、ご本人の状態に合わせてお電話でも状況報告を行い、疎遠にならないよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内の方以外は会う機会は殆ど無いが、ご家族からの贈り物を頂いたら、お礼の電話をして頂く様にしている。日々の会話の中で、生活していた地域・友人の話題を取り入れて楽しい時間が過ごせる様にも努めている。	家族との絆を大切にし、外出など一緒に過ごせる時間が持てるよう支援している。近隣の神社へ初詣に全員で出かけている。家族から誕生日の贈り物があると、必ず電話連絡をして確認を取っている。近隣の公園に桜の花見が出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係を把握し、孤立しないように、席に配慮し、日々の生活の中で、入居者様同士が関わり合える場を作っている。また、職員が間に入り、入居者様同士が楽しく会話できるような雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に相談があった場合は、相談・支援するように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションを図り、希望・意向をお聞きし、可能な限り意向に添うように努めている。意思表示が難しい方には、ご家族と相談したり、表情等から思いを汲みとるよう努めている。	当面の必要を満たす思いを様子、能力から勘案して要望に繋げている。日常生活の様子や家族の情報から意向を捉えている。生活歴を聴き、趣味や貼り絵等の得意な分野を知り暮らし方を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から、ご本人・ご家族からお伺いしたり、日々の生活や会話の中からも生活歴を把握するように努め、職員間でも情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握する為に、日々の様子等を随時、記録し職員間で情報を共有し、ケアに反映させるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で、現状に合った介護の見直しを行い、その見直しに合わせて介護計画を作成している。	事業所での生活が円滑なものとなるよう残存能力を見極め、手作業などを通して楽しみがもてるよう支援するプランとなっている。6ヶ月ごとにケア会議を行い、モニタリングをしながら進捗状況を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に日々の様子・会話・気づき等を記録したり、連絡ノートを活用しながら、職員間で情報を共有している。また、気づいたことは申し送り、ケアや介護計画に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族・医師・看護師等と連携しながら、職員間で話し合い、入居者様のニーズに対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の際など、近隣やお店の方々に協力をして頂く事があり、自然な流れで協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス開始前にかかりつけ医の確認を行い、ご本人・ご家族の意向に合わせている。緊急時等、他の医療機関を受診する際にも、かかりつけ医・ご家族と密に連絡を取り対応している。	ほとんどの利用者は法人の医師がかかりつけ医となり、週3日ごとに様子を見に来てくれる。訪問歯科の往診があり状況に応じて処置をしている。看護師の24時間対応が可能であり、点滴等の医療処置をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調等、状態報告を行い、医療的な相談・指導を受け、異常の早期発見に努め、適切な対応が出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人・ご家族が安心して治療を受けられるよう些細なことでも主治医に報告し、相談しながら対応している。また、主治医の指示により他の医療機関とも連携し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご本人・ご家族に暫定的なご意向をお伺いしている。重度化の際には、医師とご家族に今後の治療方針を話し合っており、内容に合わせた介護計画を立てケアに努めている。	医療連携体制が整い、終末期の医療処置は、家族の希望があれば、医師の指導の下、看取りを支援している。看護師の24時間対応が可能であるため、重度化して点滴などの医療処置が必要となっても治療方針に沿って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは整備しているが、定期的な訓練は行っていない。個々に勉強が出来るように書籍は準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・防災マニュアルは整備し、定期的に入居者様参加の避難訓練を年2回行い、合わせて防災訓練も取り入れて行っている。時には消防関係者にも参加して頂き、運営推進会議でも報告している。	火災想定での避難訓練を実施している。避難時の反省点、問題点(避難に時間がかかる。拒否され誘導困難等)が挙げられ、次回への課題としている。火災時の避難場所はデイサービスの駐車場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を尊重し、言葉掛け・会話等に配慮し人格を傷つけないように気をつけているが、時折、厳しい口調になる事もあるが、基本は心掛けている。	事業所全体として、言葉かけに注意を喚起している。特にトイレ誘導時には声掛けにプライバシーへの配慮をするよう工夫している。自己決定が出来るよう選択の支援をしている。難聴者にはボードで筆談をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が気兼ねなく意思表示・自己決定が出来るような雰囲気作りに努め、自己決定が出来ない方はご家族と連携を行い、意思表示が上手く出来ない方は、表情・仕草等から思いを汲みとるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務に追われ職員優先のケアを行う事があるが、出来るだけ入居者様主体の生活に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の方は、ご本人にお任せしている。又、2ヶ月に1回は訪問理美容を利用している。整容は、個々に合わせて声かけ対応を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を把握し、ご希望を出来るだけ取り入れるようにしている。食後の後片付け等は行える方にはお手伝いして頂いてます。	毎月1日には赤飯で祝っている。基本、入居者が美味しく食べられるようメニューを工夫している。おやつにホットケーキやおはぎ作りをして楽しんでいる。可能な方には後片付けをしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には、主治医の指導を受けながら、水分摂取量・食事形態・食事量・器等に配慮し、個々に摂取量を記録し体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に合わせた口腔ケアを行っている。また、歯科治療が必要な方は、ご家族と相談し歯科受診・往診が受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を記録し、排泄パターンの把握に努め、必要に応じて声かけ・誘導を行っている。	座位が可能であればトイレでの排泄を試みている。現在、紙パンツやパットは使用しているが、オシメ使用者はいない。1日1000mlの水分量と乳酸菌飲料や食事メニューで体調管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、個々に合った排便コントロールを行い、食事メニュー・乳酸菌等の摂取にも配慮し、必要に応じて主治医と連携をとり内服薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員不足の為、定期的入浴対応が行えていない。入浴できる日は、1日で全員が入れる様な工夫を行っている。	週2回の入浴が行われている。血圧を図り、入浴の意思確認をして誘導している。男性職員の声掛けに拒否を示すも、声掛けを工夫しながら誘導している。入浴は会話する機会とみなし支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないように、個々の生活リズムを把握し、体調・状況に合わせて支援している。重度の方には、逆転しない程度に、日中、休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に薬剤説明書を専用ファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。内服薬変更時には、職員間で情報共有できるようにしている。体調変化時には随時、主治医へ報告・指導を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を把握し家事作業・創作活動等を行って頂いている。また、その他のメニューの模索も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の行事に配慮し少しでも、外出の機会を設ける様にし、誕生月には希望があれば外出に出掛け、ご家族に協力依頼する事もある。定期的日曜日の外出は職員不足の為、外出が出来ていません。	近隣の神社に全員、初詣に出掛けている。春には近くの公園へ桜の花見、ドライブを兼ねて渋川へ藤を見に行っている。気分転換や外気浴を兼ね、駐車場やベランダに出て流しそうめんやバーベキューを楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを、お預かりし、買い物時は一緒に支払いを行い、支出金は出納帳に記載し、毎月、ご家族に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様宛に外部より、手紙・小荷物等が届いた時は、ご本人からお礼の電話が出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が不快な思いにならないようなテーブル・席順に配慮し、共有スペースには、温度計を設置し、温度・湿度に配慮している。また、日々、入居者様が手作りされた作品や、行事風景の写真等、見えるような壁面飾りを工夫している。	テーブルの席は気の合う関係を考慮しながら配席をしている。玄関やリビングには季節感が味わえるよう季節の飾りを施している。壁には行事活動の写真や桜の花飾りを貼りつけ、居心地良く過ごせる様支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを設置しており、個々で希望される席で過ごして頂いているが、ほぼ席が決まっている。また、テーブル席は気が合う方同士が座って頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅で使っていた家具・生活用品等を持参して頂き、個々の環境作りに配慮している。	各部屋の扉を変えて他室と区別し、自立を促している。居室のほとんどがたたみ敷きになっており、落ち着いて生活できるよう工夫している。時計、カレンダー、家族の写真飾り、自分らしい部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室入口に解りやすい位置に表札を設け、室内には安全に移動できるように家具・ベッド等の配置に配慮した空間作りを行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203212		
法人名	医療法人 恵和会		
事業所名	グループホームけぼの(2ユニット目)		
所在地	岡山県倉敷市児島小川9丁目486-1		
自己評価作成日	平成30年2月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvsovoCd=3370203212-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成30年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療機関なので健康管理に努めており、体調面に異変があればすぐに対応できる環境である。そのため、地域の方々との繋がりもあり、行事に呼んでいただいたり、慰問に来ていただいたりしており、地域交流に繋がっている。
 個々の日常の生活リズムを大切にしながら利用者様を主体としたケアに努め、能力や精神状態に合わせた役割作りや思いに添った支援を行っている。
 また、季節行事を行いながら、日々の何気ない日常を楽しんでいただけるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、それに基づいた方針でケアの方向性を決めている。また、ホーム独自の目標も掲示し、常に共有できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会やお祭りなど地域行事に参加したり、ホーム行事の際などに慰問に来ていただいたりしながら地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用して、地域の方や地域包括支援センター、介護保険課の方々と話す機会を設けたり、相談を受けた場合は認知症についての理解や支援方法をアドバイスしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動を理解していただくよう事業所の取り組みや行事などを報告したり、地域の情報を教えていただいたりしながら意見交換をしている。また、その時に出た意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市と連携し、意見や助言、協力を得てサービス向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご本人が不快な思いをしないことが前提のケアに努めている。また、研修等で身体拘束に関する知識を深めると共に、些細なことでも職員間で注意喚起しながら取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で虐待に関する知識を深めて虐待防止を徹底している。些細なことでも虐待に当たるものは多いので、職員間でも声をかけ合い、補い合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている利用者様が少ないので、職員の理解は乏しい。できるだけ職員の外部研修の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をし、納得していただいた上でサービスを開始している。改定等サービス変更の際も同様に随時、説明し、承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日々の関わりの中で要望等の把握を心掛けている。ご家族には面会時に近況報告すると共に、要望等をお伺いし、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議などを活用し、職員が意見交換しやすい場を設けている。管理者は随時、職員の意見や要望を聞き、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の就業時などの様子を把握すると共に意見や要望を聞き、相談にのるようにしている。場合によっては代表者に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の研修へ参加する機会を設け、ケア技術の向上に努めている。また、働きながら資格取得ができるよう勤務調整等もやっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの運営推進会議に参加したり、研修等で他施設の方と交流する機会を活用したりしながらサービス向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活歴を参考にしながらできること、できないことを把握し、ケアを行うよう努めている。また、入居してすぐは戸惑いや不安な気持ちが強いので必要以上に馴れ馴れしくしないよう努めながらも話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にご家族の不安な思いや要望等も伺い、ケアに取り入れている。また、ご家族が話しやすい雰囲気を作ると共に積極的にコミュニケーションを図るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向をお伺いし、必要なサービスの提供に努めている。当ホームでの対応が困難な場合は、他のサービスを含めた対応ができるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護している、してあげているという思いではなく、利用者様ができないことをお手伝いしている。普段は危険のないよう見守りながらご本人の能力を活かしたケアを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会時にご本人の様子や状態を報告し、意向や要望があれば伺い、また、困っていることがあれば相談している。月1回、お便りを出したり、特変があれば電話したり、随時、状態報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーへ買い物に行ったり美容院へ行ったりしている。また、時にはご家族とご自宅に帰って掃除等をして来られる方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りながら会話はもちろん作業やレクリエーションを行い、利用者様同士の交流をもっていただいている。食事席も各々の関係性をみて会話や助け合いができるような配置となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に相談があった場合は、必要に応じて支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを大切にし、日々の様子や会話の中からご本人の思いや希望を把握するようにしている。コミュニケーションが困難な方も表情や仕草などから気持ちを汲み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からお伺いするのはもちろんのこと、日々の生活状況や言動からわかることも多いので何気ない会話を大切にし、情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握するために、日々の会話や様子などを記録している。また、その情報を職員間で共有し、ケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアをもとに状態や状況を考慮したうえで定期的に見直しを行い、職員間で話し合っている。ご本人からの意見はなかなか難しいが、ご家族の意見も伺いプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に日々の様子や会話を記録しており職員間で情報を共有している。また、気付いたことなど新しい情報は連絡ノートを活用しながら申し送ったり、会議で話し合ったりし、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要があれば今までにないことでも、まず、職員間で話し合い、可能な限り対応しようと試みている。ご家族や医師、看護師等他職種の方々とも連携しながら、ニーズに対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや地域の方々から情報をいただいたり、地域の行事にも参加させていただいたりしている。地域の方々による慰問も増え、温かく迎え入れていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前から母体の医療機関にかかっている方が多いが、その他の医療機関の場合も継続している。またご家族や他の医療機関とも連携しながら対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、体調などこまめに状態報告している。また、少しでも気になることがあれば看護師に報告、相談し、対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人・ご家族が安心して治療を受けられるよう些細なことでも主治医に報告し、相談しながら対応している。入院時も可能な限りスタッフは面会に行き、早期退院への支援を働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人、ご家族の暫定的な意向を伺っている。終末期の際はご本人の思いを踏まえた上でケアの方向性を考え、ご家族や医師など関係者と常に連携し、相談しながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは整備しているが定期的な訓練は行っていない。研修に参加したり、わからないことは医師や看護師に聞いたりしている。また、職員間でも適切な対応ができるよう、随時、話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災マニュアル・災害マニュアルを整備し、年2回火災訓練を行い、それに合わせて防災訓練も行っている。時には消防関係者や地域の方々にも参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	安心していただけるよう笑顔での声かけを心掛け、個々の性格に合わせた声かけや対応をしている。また、プライバシーにも配慮し、不快な気持ちにならないよう気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が物事を押し付けることなく、ご本人の意思で選択していただけるよう配慮している。また、我慢される方や思いを言葉にできない方は表情やしぐさなど微妙な変化から思いを汲みとり、気持ちに添えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間など基本的な一日の流れはあるが強制はしておらず、時間をずらしたり拒否されたりすることも受け入れ、ご本人のペース、体調等に配慮している。また、ほとんどの時間は自由に過ごしていただき、時には寄り添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にはご本人にお任せしているが、必要があれば個々に合わせた身だしなみやおしゃれができるよう支援している。パーマや髪染め、お化粧品などを楽しまれている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望のメニューを取り入れたり、味付けはもちろん彩りなど盛り付けにも気を配っている。また、調理や準備、片付けもできる範囲で一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態でお出しし、食事量、水分量はその都度記録している。また、体調面も考慮し、時には代替え品を用意したり、食事時間をずらしたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方はご本人にお任せしているが、必要な方には声かけや介助を行っている。口腔内のトラブルがあった際はかかりつけ医への受診や訪問歯科にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄を心掛けているが、身体機能の低下により、おむつ使用の方が増えている。ご自分で行かれる方はさりげなく声をかけ、必要な時は介助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排泄記録を付けており、排便の有無を確認している。薬や点滴で対応することもあるが、できるだけ食事や水分、運動等で排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合により入浴時間はある程度決まっているが、拒否される方は無理強いせず日を改めるなど対応している。個々の好みの湯加減にしたり、入浴剤を使用したりするなど、入浴を楽しんでいただけるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分などその時の状態や状況に合わせてご本人が安楽に休めるよう配慮している。夜間、眠れない時や不安なことがある時は、職員と一緒に話をしたりお茶を飲んだりすることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や効用について薬剤の説明書を見たり、医師や看護師に尋ねたりしながら理解に努めている。また、薬の変更があった場合は医師に確認したうえで全職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きなこと、得意なことを把握し、家事作業や創作活動などを行っていただいている。また、気分転換に近隣を散歩することによって、地域の方とも触れ合える機会がある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の都合であまり外出できていないが、ご本人が希望される場合は対応している。また、地域のイベントに出かけたり、外食やご自宅へと連れ出してくださるご家族もおられ、ご本人にとって良い気分転換になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりしているが、ご家族の了解を得た上で少額所持されている方もおられる。外出の際に買い物をしたり、毎週訪れる移動販売のパン屋さんで好きなものを購入したりできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればご家族の了解を得た上で、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花や置物などを飾り、季節を感じられるよう配慮している。また、ホーム内の温度調節をしたりするなど、居心地の良い空間になるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席で過ごされていることが多いが、和室やソファへ移動して寛がれていることもあれば、何人か集まって談笑されていることもあり、各々好きな場所で自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品等を持ち込んでいただき、個々に合った環境作りに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できるよう個々の状態に応じて手摺を設置したり、ベッドやタンス等、家具の配置に配慮したりしている。また、居室入口にはネームプレートをかけたリ、トイレとわかるよう張り紙をしたりしている。		